

長崎県民100人に聞きました（インターネット&FAX）

景況感と物価について

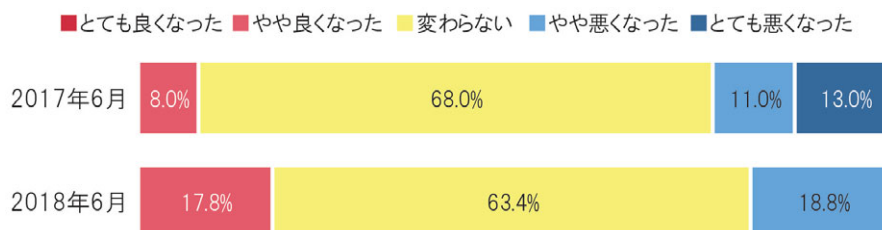
政府による5月の月例経済報告では、個人消費は「持ち直している」とされ、国内の景気は「緩やかに回復している」との基調判断が示されましたが、長崎県内で暮らす人々は、景気や物価についてどのように感じているのでしょうか。

最近の景況感について

「現在の景気は、昨年と比べてどのように変化したと感じますか？」と尋ねたところ、「とても良くなった」との答えはなく、「やや良くなった」と答えた人が17.8%でした。一方、「やや悪くなった」と答えた人は18.8%で、「とても悪くなった」と答えた人はいませんでした。

昨年同時期の調査結果と比べると、景況感を示す指数DI [= (「とても良くなった」 + 「やや良くなった」) - (「やや悪くなった」 + 「とても悪くなった」)] は、▲16.0から▲1.0と、15.0ポイント改善しています。

1年前と比べた最近の県内景気



「やや良くなった」と答えた人からは、「大型商業施設が活気付いている印象を受ける（20歳代女性）」や、「観光客が増えた（30歳代女性ほか）」、「売上が上がった（40歳代男性）」などの意見が挙がりました。また、「やや悪くなった」と答えた人からは、「転出超過でアーケードも高齢者中心。活気がない。求人内容も他県の活況に比べ貧相（30歳代女性）」や「観光客が多いわりに閉店するお店が増えたような気がします（50歳代女性）」、「再編などで仕事量が減る見込み（40歳代男性）」などの意見が挙がりました。

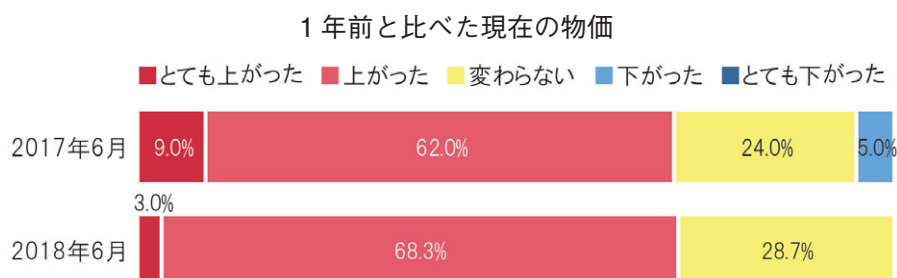
調査方法：(有)みかんコミュニケーションズが運営する長崎県内女性ネットワークMONET登録会員を中心にインターネット及びFAXにより県内在住の男女101名より回答を得ました。

調査期間：2018年5月29日(火)～6月7日(休)

回答者属性：【性別】男性22名、女性79名 【年齢】10～20歳代8名、30～40歳代43名、50～70歳代50名
【居住地】県南85名、県北3名、県央10名、離島3名

また、「現在の物価は、昨年と比べてどのように変化したと感じますか？」と尋ねたところ、「とても上がった」と答えた人の割合は3.0%、「上がった」が68.3%でした。一方、「下がった」「とても下がった」と答えた人はいませんでした。

昨年同時期の調査結果と比べると、物価DI（＝〔「とても上がった」＋「上がった」〕－〔「下がった」＋「とても下がった」〕）は、66.0から71.3と、5.3ポイント上昇しています。



物価が上がったと感じる理由については、特に、食品やガソリンの値上がりについての記述が目立ちました。具体的には、「とても上がった」と答えた人からは、「葉もの野菜を筆頭にすごく食品が高いと感じる。ちょっと買っただけで、すごい金額になる（40歳代女性）」や、「一見価格が下がったように感じるものでも、実際は内容量がその分減っていたり、品質が落としてあったりする（50歳代女性）」といった意見が挙がりました。

また、「上がった」と答えた人からは、「生活に欠かせないもの、例えば、ガソリン代、調味料、野菜、お酒、宅急便などが値上がりしていて、わずかな値上がりの積み重ねが財布のひもを固くしている（40歳代男性）」や、「生協のカタログに、『今回から値上げ』の表示が増えた（50歳代女性）」などといった意見が挙がりました。

気候の影響を受け、2017年夏や2018年1～3月期に、野菜価格の高騰が家庭の台所を直撃しました。

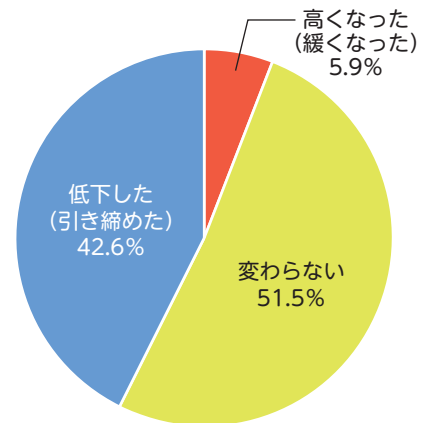
スーパーなどの店頭には、消費者が買いやすいように、レタス1／2玉、白菜1／4玉などのカット売りや、トマト1個、きゅうり1本などのばら売りの野菜が並びました。



さらに、「あなたの購買意欲（お金の使い方）は、1年前と比べてどのように変化したと感じますか？」と尋ねたところ、「高くなった（緩くなった）」と答えた人の割合は5.9%、「低下した（引き締めた）」は42.6%でした。

「高くなった（緩くなった）」と答えた人からは、「物を買うよりも、健康・食・運動に費やすお金が増えてきている（30歳代女性）」や、「購買しないと景気が良くなると思うから（50歳代女性）」などといった意見が挙がりました。一方、「低下した（引き締めた）」と答えた人からは、「所得は変わらないのに、物価が上がったため（40歳代女性ほか）」、「貯金したいから（30歳代女性ほか）」、「子どもにかかる費用が大きいから（30歳代女性ほか）」などといった意見が挙がりました。

1年前と比べた購買意欲（お金の使い方）



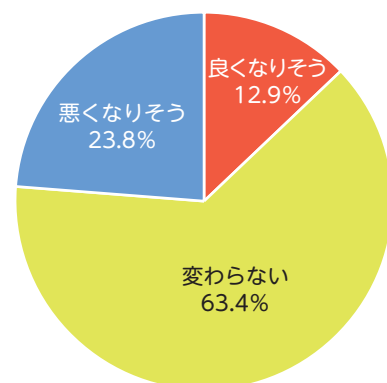
今後1年間の見通しについて

「1年後の県内景気について、いまと比べてどうなると思いますか？」と尋ねたところ、「良くなりそう」と答えた人の割合が12.9%であった一方、「悪くなりそう」は23.8%でした。

1年後の景況感を示す指数DI（＝「良くなりそう」－「悪くなりそう」）は▲10.9となり、現在のDI（前述、▲1.0）と比べると、9.9ポイントの悪化となります。

「良くなりそう」と答えた人からは、「観光誘致に期待ができる（30歳代女性）」や、「元号が変わり、新天皇が即位され、お祝いムードのなかで、新しい気持ちになれそうな期待（40歳代男性）」、「世界遺産登録されたら、それに伴いお金も入るだろうから（50歳代女性）」などの意見が挙がりました。一方、「悪くなりそう」と答えた人からは、「県外への人口流出もあり、高齢者が増えていけば生産性がなく経済がまわらないから（40歳代女性）」や、「大手企業が撤退、合併などで縮小しているから小さいところはどんどん商売がやりづらくなっている（50歳代男性）」、「派遣やパートの求人が増加しているので（50歳代女性）」などといった意見が挙がりました。

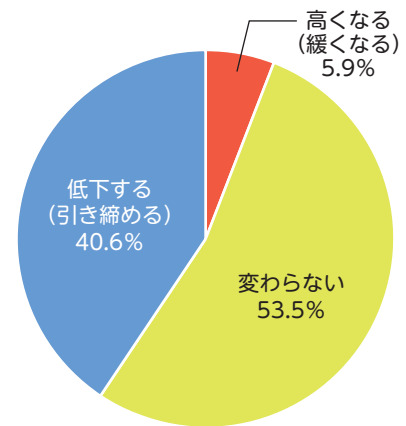
1年後の県内景気予想



また、「あなたの購買意欲（お金の使い方）は、これから先1年の間に、どのように変化すると思いますか？」と尋ねたところ、「高くなる（緩くなる）」と答えた人の割合は5.9%、「低下する（引き締める）」は40.6%となり、現在の購買意欲（前述）と大きな変化はみられません。

「高くなる（緩くなる）」と答えた人からは、「自分に必要な物であればPC等高額な品であっても購入する（30歳代女性）」や、「長女が就職したため、その分子供への支出が減り、少しは購入意欲が高くなると思う（50歳代女性）」といった意見が挙がりました。一方、「低下する（引き締める）」と答えた人からは、「ますます物価が上がるだろうから（20歳代女性）」や、「大きな買い物をした直後なので、いざというときの預金確保が必要（40歳代男性）」、「お金もさることながら、物を増やしたくない気持ちもあるので、出来れば必要なもの以外は買わないでおこうと思う（60歳代女性）」などといった意見が挙がりました。

1年後の購買意欲（お金の使い方）予想



活性化のカギは？

「長崎県あるいはお住まいの地域に、いま最も活気を与えるものは何だと思いますか？」と尋ねたところ、「V・ファーレン長崎」に関するものが最も多く、次いで「観光」、「商業・レジャー施設」に関するものでした。

具体的には、「V・ファーレン。試合があることで、県外からも人が来ているから、賑わっている気がします！（20歳代女性）」、「観光客。長崎に新たな世界遺産が増えそうなので、国内外の観光客の増加に期待しているが、県には、増加に伴う観光客のマナー問題や、受け入れ体制にしっかり取り組んで欲しい（50歳代女性）」、「子供、カップル向けの遊具施設の充実。そうすれば休日などよその県に行かず、逆に他県からも人が訪れ活気が出ると思う（40歳代女性）」、「自治体や長崎大学、大手企業と新しい産業（IT、エネルギー等）を興し、活性化させる（50歳代男性）」、「高齢者が増える中、地域の行事も楽しみを与えてくれています。笑える楽しみを一つでも作ってあげられる地域でいたい（50歳代女性）」など、さまざまな意見が挙がりました。

活気を与えるものは何？

V・ファーレンの活躍	14.9%
観光客の誘致	12.9%
商業・レジャー施設の誘致	10.9%
企業誘致、雇用	9.9%
イベントの開催	8.9%
新幹線、交通網の整備	6.9%
子育て環境の整備	5.0%
行政改革、議会改革	3.0%